

1) ガバナンス部門(部門責任者)

辻 康夫(教授・政治理論)

2023 年度の研究活動およびそのアウトプットについて。

私の研究テーマは多文化主義の政治理論の構築であり、当センターにおいては、多文化主義とガバナンスをめぐる研究に従事している。多文化主義はその単純な外見に反して、多様な政策課題に対応する複雑な構造を持ち、これに対応していくつかのアプローチにカテゴリー化することができる。私はこれを「文化アプローチ」「支配・抑圧アプローチ」「コミュニティ・再建アプローチ」として定式化し、それぞれの論理と相互の関係を検討してきた。2023 年度には、この数年取り組んできた「文化アプローチ」についての結論部分を、「言語保全政策の手法と正当化(2・完)：カナダ・ケベック州と北米先住民の実践例からの考察」として公刊した。2023 年度はこれに続いて「支配・抑圧アプローチ」の理論に取り組んでおり、とくに「構造的不正義」「歴史的不正義」についての研究をすすめた。年度内に成果を公表することはできなかったが、近日中にこれをまとめる予定である。

その他(教育活動ほか)

学部向けには、法学部専門科目「政治学」の講義を、公共政策大学院および研究大学院向けには、「公共哲学」を担当した。全学教育についてはオムニバスの総合講義「価値対立時代の対話学」のうちの 2 回分を担当した。

論文

論文標題	誌名	発行年	頁
言語保全政策の手法と正当化(2・完)：カナダ・ケベック州と北米先住民の実践例からの考察	北大法学論集 74(1)	2023 年 5 月 31 日	23-52